

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【選択必】地理歴史・日本史A	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を学ぶ楽しさを知り、国際社会で通用する歴史認識を養う。</li> <li>・生徒自らが主体的に考えることで、日本の歴史像を築けるような思考力・判断力を身につけ、現代社会において主体的に生きる日本人としての資質を養う。</li> </ul>				
使用教材	【教科書】高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来 (第一学習社)				
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
	現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在の結びつきを思考し、主体的に生きる社会の一員としての責任を果たそうとしている。	近現代の歴史的事象と現在の結びつきを考える活動を通して、歴史への関心を高め歴史を学ぶ意義に気づく。多面的・多角的に考察し公正に判断する歴史認識を身につける。	現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点に立って、歴史的有用な諸資料を収集し正しい情報を選択して活用することができる。	近現代の歴史展開を地理的条件や国際環境と関連付け、現代の諸課題に着目できる歴史的思考力を身につける。国際社会で通用する歴史認識を身につけ、主体的に生きる自覚を持つ。	
評価方法	「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能」、「知識・理解」について、到達目標との整合性を考えて総合的に評価します。授業を大切にすることと提出物についても評価します。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期	第1部 私たちの時代と歴史 私たちの時代  第2部 近代の日本と世界 第1章 近代国家の形成と国際関係の推移 第1節 近代への胎動 近代の追求 旅行の歴史 日本人の生活と産業 第2節 明治維新 第3節 近代国家の形成 第4節 国際関係の推移と近代産業の発展 近代の追求 制服の歴史 学校と近代社会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の身近な出来事を出発点に全時代の日本史を概観し、日本人の心・価値観を考察する。</li> <li>・明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。</li> <li>・大日本帝国憲法の成立と帝国議会のあり方を理解する。</li> <li>・明治政府の特徴と議会政治の動向を理解する。</li> <li>・日清・日露戦争の経緯と結果を理解する。</li> <li>・明治～大正期の政党政治の展開を理解する。</li> </ul>		
2 学期	第2章 両対戦をめぐる国際情勢 第1節 第一次世界大戦と日本 第2節 第二次世界大戦と日本 近代の追求 流行歌の歴史 生活とメディア 第3章 現代の日本と世界 第1節 日本の再出発		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大正デモクラシーの時代背景を政治・外交・経済との関連で理解し、日本の民主主義・政党内閣制の意義について考察する。</li> <li>・2つの大戦を軸に政治・外交・経済上の国際関係を理解し、日本国内で軍部が台頭した経緯や大戦の原因を考察する。</li> </ul>		
3 学期	第2節 独立後の政治と経済の発展 第3節 現代の日本と世界		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の独立と国際環境の関わりを理解し、特にアメリカとの外交関係が日本国内に及ぼした影響を政治・経済面から考察する。</li> </ul>		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忘れ物をする事なく、説明をしっかりと聞き、板書もきちんと取ってください。</li> <li>・日々の授業を大切にし、知らなかったことを知る楽しみを感じてください。</li> <li>・提出物を期日を守って出す努力をしてください。</li> </ul>				

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【選択】理科・生物基礎	単位数	2 単位	履修学年	3 年
目 標	1. 生物や生命の多様性について学習し、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 2. 遺伝子、健康、環境など私たちの生活に身近な内容を学習することで、生物や生命に対する興味・関心を高める。 3. 生物や生命現象の中から課題を見出し、観察、実験を通して探究する姿勢を身につける。				
使用教材	【教科書】新編 生物基礎 (東書)				
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度  生物・生命などに興味を持ち、構造やはたらきに関心を持つことができる。また学習内容が自分の体や生活・社会に関わる身近な問題であると理解し、新聞やテレビ報道の内容に関心を持つことができる。	思考・判断・表現  生物が共通に持つ体の特徴や働き、また生物をとりまく環境について理解し、知識を増やし、説明することができる。また学習した内容について考察し、自らの考えを的確に表現することができる。	観察・実験の技能  さまざまな実験器具を正しく使用し、観察・実験技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身につける。	知識・理解  生物のからだの特徴・遺伝子やDNA・生物の体内環境の維持・生態系について、その基本的な働きやしくみを理解することができる。学習内容のヒトとのかかわりや具体例について知る。	
	評価方法 生物に対する「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「観察・実験の技能」については、探究心を持ち意欲的に取り組めたかどうかなど、日々の授業態度などから評価します。「知識・理解」については、実験や観察を通して、自然の事物や現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基礎的な知識が身についたかどうかを提出物の状況や5回の定期考査等から総合的に判断し評価します。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期	1 編 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性  2. 生命活動とエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物は多様でありながら共通性があることを知り、細胞について学ぶ</li> <li>・生命活動に必要なエネルギーは、呼吸や光合成から得ていることを理解し、細胞のはたらきについて学ぶ</li> <li>・DNAについて学ぶ</li> <li>・細胞分裂時の遺伝子の配分について学ぶ</li> <li>・体内でどのようにタンパク質が合成されているか学ぶ</li> </ul>		
2 学期	2 編 遺伝子とそのはたらき 1. 生物と遺伝子 2. 遺伝情報の分配 3. 遺伝情報とタンパク質の合成				
3 学期	3 編 生物の体内環境の維持 1. 体内環境の維持  2. 体内環境を保つしくみ  3. 体内環境を守るしくみ  4 編 生物の多様性と生態系 1. 植生の多様性と遷移 2. バイオームとその分布 3. 生態とその保全		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓、肝臓、腎臓のはたらきによる体内環境の維持について学ぶ</li> <li>・自律神経やホルモンの調節作用は、体内環境が維持されることにより保たれることを理解し、脳との関連について学ぶ</li> <li>・病原体の侵入を防ぐために、細胞が異物を認識し、排除する仕組みについて学。</li> <li>・生態系における植物の役割について学ぶ</li> <li>・地球規模での植物の分布について学ぶ</li> <li>・エネルギーと物質の循環、自然界のバランスについて学ぶ</li> </ul>		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業に取り組む態度を養い、ノートは毎時ごとにしっかりと整理してください。</li> <li>・課題やノート提出の期限に遅れないようにしてください。</li> </ul>				

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

<b>教科・科目</b>	【選択】理科・化学基礎	単位数 2 単位	履修学年 3 年	
<b>目 標</b>	1. 「化学」は、物質を調べ、つくり出し、利用するための基礎となる学問であること、さらに化学が人間生活に果たしている役割を理解する。 2. 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。 3. 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解するとともに日常生活や社会と関連付けて考えることができるようになる。 4. 上記1～3の目標を達成するために探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、化学的に探究する能力を高める。			
<b>使用教材</b>	【教科書】新編 化学基礎 (東書)			
<b>評価の観点・評価規準</b>	関心・意欲・態度  物質の性質に関心を持ち、原子の構造や化学的性質について学習し、それらの知識を活かして、状態変化・反応式やイオンの生成・量的関係・酸と塩基・酸化と還元について意欲的に探究しようとする。	思考・判断・表現  物質の構造・状態・化学結合と物質の性質等について学習し、学習内容と具体的物質や社会との関連を見いだし総合的に考察し、それらを必要に応じて活用し、的確に表現できる。	観察・実験の技能  さまざまな実験器具を正しく使用し、観察・実験の技能を習得する。さらに物質と人間生活、化学とその役割に関して科学的に探究する方法を身に付ける。	知識・理解  物質の探究をするために物質の構造・状態・化学結合など化学的な基礎知識を身に付ける。さらに観察・実験などを通して「物質」を理解する基本的な概念・原理・法則を身に付ける。
<b>評価方法</b>	化学に対する「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「観察・実験の技能」については、探究心を持ち意欲的に取り組めたかどうかなど、日々の授業態度などから評価します。「知識・理解」については、実験や観察を通して、物質と人間生活、化学とその役割について基本的な概念や原理・法則を理解し、基礎的な知識が身についたかどうかを提出物の状況や5回の定期考査等から総合的に判断し評価します。			
<b>学 期</b>	<b>学 習 内 容</b>	<b>学 習 の ね ら い</b>		
1 学期	序編 化学と人間生活  1 編 物質の構成 1 章 物質の成分と構成元素  2 章 原子の構造と元素の周期表	・人類がどのように「物質」を探究し利用してきたか、また人類は「物質」とどのように関わっているのか、さらに物質と地球環境について考える。  ・物質の分離、精製やその成分を調べる実験、観察を通して、物質の成り立ちについて学ぶ。 ・物質を構成する基本粒子について学ぶ。 ・身の回りにおけるすべての物質が原子、分子、イオンという粒子からなることを理解し、イオン結合や共有結合について学ぶ。		
2 学期	3 章 化学結合  2 編 物質の変化 1 章 物質と化学反応式			
3 学期	2 章 酸と塩基  3 章 酸化還元反応	・原子や分子1個は大変小さいので、そのままの数値では扱いにくい。原子・分子を集団として扱う物質の考え方について学ぶ。 ・身近なところで多く利用されている酸と塩基について、中和反応やその量的関係について学ぶ。 ・物質の燃焼や、金属の溶解などの化学反応は、電子の移動を伴う酸化還元反応である。酸化還元反応を電子の授受に基づいて理解し、電池や電気分解についても学ぶ。		
<b>学習上の留意点</b>	・積極的に授業に取り組む態度を養い、ノートは毎時ごとにしっかりと整理してください。 ・課題やノート提出の期限に遅れないようにしてください。			

## 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	【選択】理科・物理基礎	単位数	2	単位	履修年次	3 年次
目 標	<p>工業系科目の土台として、日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動とさまざまなエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察・実験を行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物理学と日常生活や社会との関連についての重要性に気づき、物体の運動など、身近な物理現象やエネルギーへの関心を高める。</li> <li>・物理学的に探究する能力と態度を育成し、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。</li> <li>・身近な事物・現象を物理学的に解釈し、物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見出す能力と態度を身につける。</li> <li>・身近に見られる物理現象の背後に原理・法則が存在することを理解し、それらを日常生活や社会の中で活用する能力と態度を身につける。</li> </ul>					
使用教材	【教科書】改訂版 新編 新物理基礎 (数研出版)					
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解		
	・物理的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的な態度を身につけている。	・物理的な事物・現象の中に問題を見出し、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断することができる。	・物理的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、方法や過程や結果を的確に表現することができる。	・観察、実験などを通して物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。		
評価方法	「関心・意欲・態度」「観察・実験の技能」については日々の授業態度や観察、実験などの取り組み・提出物の状況を中心に、「思考・判断・表現」「知識・理解」については、基本的な概念や原理・法則を理解し、基礎的な知識が身についたかどうかを5回の定期考査やノート・提出物等を中心に、それぞれ総合的に評価します。					
学 期	学習内容			学習のねらい		
1 学 期	<p>○力と運動</p> <p>1. 物体の運動 速さと速度／ 速度の合成・分解と相対速度／ 加速度と等加速度運動／</p> <p>2. 落下運動 落下運動／ 放物運動</p> <p>3. 力のつり合い 力／ 力の合成・分解と力のつり合い</p> <p>4. 運動の法則 運動の3法則／ 抵抗力を受ける運動</p> <p>○エネルギー</p> <p>1. 力学的エネルギー 力がする仕事／ 運動エネルギーと位置エネルギー／ 力学的エネルギー保存の法則</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理学が拓く世界について知る。</li> <li>・速度、加速度といった運動を表現する諸量の定義を理解し、運動を表現、分析できるようになる。</li> <li>・落下運動などの日常に起こる物体の運動を通して、運動状態と力の関係を知る。</li> <li>・力についての理解を深め、合成・分解の手法を用いて、運動の解析に適用できる。</li> <li>・運動の3法則を理解し、運動方程式を用いて、運動の諸量や力を求めることができる。</li> <li>・力学的エネルギー、仕事、仕事率といった諸量の定義を理解し、エネルギーと仕事の関係を理解する。</li> <li>・力学的エネルギー保存の法則が成り立つ状況を理解し、力学的エネルギー保存則を用いた計算ができる。</li> </ul>		

<p>2 学 期</p> <p>2. 熱とエネルギー 熱と温度／ 熱容量と比熱／ 物体の熱膨張／ エネルギーの変換と保存／ 不可逆変化と熱力学第二法則／ 気体の圧力</p> <p>○波動</p> <p>1. 波の性質 波とその要素／ 横波と縦波／ 波の強さ／波の重ね合わせ／ 波の反射</p> <p>2. 音波 音波の性質／ 弦の振動／ 気柱の振動</p> <p>3 学 期</p> <p>○電気</p> <p>1. 静電気と電流 静電気／ 電流と抵抗／ 電気エネルギー</p> <p>2. 電流と磁場 磁場／ モーターと発電機／ 交流と電磁波</p> <p>3. エネルギーとその利用 太陽エネルギーと化石燃料／ 原子力エネルギー</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・温度や熱に関わる諸量の定義を理解し、熱現象の法則性について知る。</li> <li>・内部エネルギーと熱力学第1法則について理解する。</li> <li>・波の要素や波特有の現象について理解し、縦波と横波を、日常の現象にあてはめて説明できる。</li> <li>・波動現象に共通する性質と法則性について理解し、応用できる能力をつける。</li> <li>・音に関する諸現象を知り、法則化し、応用できる能力をつける。</li> <li>・気柱や弦の振動の規則性を用いて、波の諸量を計算できる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電荷や帯電、電流といった電気現象を、原子の構造を通して理解する。</li> <li>・電流や電気エネルギーにかかわる基本法則や回路の基礎を理解し、諸量を計算できる。</li> <li>・電場や磁場の定義や電磁誘導の現象について理解し、交流の発生とモーターや発電機への応用について知る。</li> <li>・化石燃料や原子力のエネルギー利用における基礎を理解し、成果と課題を正しく認識する。</li> </ul>
<p>学習上の留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を中心にした講義形式で行います。</li> <li>・物理を身近に感じ、理解を促すためになるべく多くの演示実験を取り入れます。</li> <li>・積極的に授業に取り組む態度、ノートをきちんと整備することが大切です。</li> </ul>	

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（機械科）・原動機	単位数	2	単位	履修学年	3	年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーについて、歴史、現状、将来の問題点などについて理解する。</li> <li>・流体の基礎、流体機械の種類や機構を理解する。</li> </ul>						
使用教材	<p>【教科書】原動機（実教出版）</p> <p>【副教材】2009年度版 工業高校機械科就職問題（一ツ橋書店）</p>						
評価の観点・評価規準	「関心・意欲・態度」	「思考・判断」	「技能・表現」	「知識・理解」			
	<p>原動機に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。</p>	<p>原動機に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。</p>	<p>原動機に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。</p>	<p>原動機に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、現代社会における意義や役割を理解している。</p>			
評価方法	<p>目標を踏まえ、原動機に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。</p>						
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーの利用の歴史                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)身近なエネルギーの利用</li> <li>(2)熱エネルギーの利用</li> </ul> </li> <li>・こんにちのエネルギーと動力                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)エネルギーの変換</li> </ul> </li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に必要な道具や機械をつくり、人力、畜力、風力、水力などの身近なエネルギーの利用について学ぶ。</li> <li>・熱そのものの利用と、光源としての利用であり、熱エネルギーを動力に変換する熱機関について学ぶ。</li> <li>・自然界にあるエネルギーと、動力への変換について学ぶ。</li> </ul>			
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流体機械の基礎                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)流体の基本的性質</li> <li>(2)圧力</li> <li>(3)管路の流れ</li> <li>(4)流体のエネルギー                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルヌーイの定理</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率よく流体機械を設計するために、流体の基本的な性質を学ぶ。</li> <li>・流体がもつ機械的エネルギーと内部的エネルギーの関係について学び、エネルギーの保存則についても理解する。</li> </ul>			
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内燃機関のあらまし                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)内燃機関の分類と利用</li> </ul> </li> <li>・熱機関の基礎                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)温度と熱量</li> <li>(2)熱エネルギーの仕事</li> </ul> </li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・流体の性質について、それぞれの特性や特徴、流体機器について学習します。</li> <li>・内燃機関について、基礎となる熱力学を学習します。</li> <li>・熱力学を活かした内燃機関のそれぞれの特性や特徴を学習します。</li> </ul>			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原動機は、動力についての学習であり、機械科の基礎・基本科目のひとつです。関心・意欲を持って取り組んでください。</li> <li>・流体や熱力学の学習では、いろいろな場面で計算力や読解力が必要となります。授業では問題集を用いて、それらの基礎についても学習します。</li> </ul>						

## 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（電気工学コース）・環境とエネルギー	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	・現在利用されているエネルギー資源の現状と地球環境問題について学び、未来のエネルギーや発電方式、省エネ技術に活用できる能力と態度を養う。				
使用教材	【副読本】 自作教材（プリント）				
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	エネルギー資源について（生活に必要なエネルギー）に興味や関心を持ち、意欲的に学習しようとする。さまざまなエネルギーと地球環境問題を積極的に解こうとする。身近な事象に対しても探求しようとする。	さまざまなエネルギーの基礎的な知識や技術を活用し、具体的な事象を適切に判断し解析しようとする能力を身につけることができたか。さまざまなエネルギーについて深く考えている。	エネルギー資源の基礎的な技術を新たな視点から発展的に捉え、実際に活用する能力と実践的な態度をもち、工業技術として具現化する能力を身につけている。	各種のエネルギー資源について、地球環境問題や新エネルギーを見識した上で、現代社会における電力技術の意義や役割を理解している。	
評価方法	目標を踏まえ、環境とエネルギーに対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。				
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			
1 学期	地球と環境と人間 ・環境問題とは ・京都議定書 地球環境の調査 ・大気・水・土壌の環境と生態系 ・地球温暖化における問題 産業における排出ガス問題	・地球環境について、各国が取り組んでいる問題を理解し、地球規模の環境問題を考えるとともに、生活に必要なエネルギーが排出する排出ガス等について学習を深めます。			
2 学期	資源の利用と環境問題 ・化石燃料 ・バイオマス燃料  環境の保全技術と管理 ・生活改善の技術（省資源化） ・CO <sub>2</sub> 削減	・エネルギー資源として、可採年数の限られた化石燃料（石炭、石油、LNG、ウランなど）と、次世代のバイオ燃料等について学習します。  ・電力の需要と供給について、地球環境問題と将来のエネルギー問題を視野に入れ、その現状を理解する。			
3 学期	発電方式 ・水力・火力・原子力 ・風力発電 ・太陽光発電 ・燃料電池	・エネルギーの利用法として、省エネ技術を応用した新エネルギー発電等の仕組みについて理解を深めます。			
学習上の留意点	他の専門科目での知識が習得されていることを前提として授業が進められます。また、地球環境や新エネルギー等の最新の技術に興味関心を持ち、しっかりと学習する必要があります。				

## 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業（ロボットコース）・機械工作	単位数	2	単位	履修学年	3	年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業材料の性質について理解する。</li> <li>・工業材料の加工方法について理解する。</li> <li>・合理的な生産方法を企画し、実際に活用できる能力と態度を身につける。</li> </ul>						
使用教材	<p>【教科書】機械工作1（実教出版） 機械工作2（実教出版）</p> <p>【副教材】自作教材（プリント）</p>						
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
	<p>機械工作に関する諸問題について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、創造的実践的な態度を身につけている。</p>	<p>機械工作に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。</p>	<p>機械工作の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。</p>	<p>機械工作の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、現代社会における工業の意義や役割を理解している。</p>			
評価方法	<p>到達目標を踏まえ、「関心・意欲・態度」「思考・判断」は、日々の授業に取り組む姿勢を中心に評価します。「技能・表現」「知識・理解」は、課題、定期考査およびノート提出を中心に評価します。これらを総合的に判断し評価します。</p>						
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械工業の歩み</li> <li>・機械材料の性質</li> <li>・鋳造</li> <li>・塑性加工</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械工業の歴史を学びます。</li> <li>・機械材料の性質および種類について学習します。</li> <li>・鋳造について学習します。</li> <li>・塑性加工について学習します。</li> </ul>			
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接</li> <li>・表面処理</li> <li>・切削加工</li> <li>・砥粒加工と特殊加工</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接について学習します。</li> <li>・めっきやコーティングといった材料の表面処理について学習します。</li> <li>・旋盤やフライス盤といった切削加工について学習します。</li> <li>・砥石車を使った加工やレーザなどを使った特殊な加工方法について学習します。</li> </ul>			
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産の計画と管理</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産方法や生産数などといった角度より必要となる工作方法や工作機械について、経済的で合理的な計画を考え、技術者としての態度を身につけます。</li> </ul>			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習をしっかりとし、日々の授業を大切にしてください。</li> <li>・与えられた課題は、提出期日を守り必ず提出してください。</li> </ul>						

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	工業(工芸デザイン科)・デザイン史	単位数	2 単位	履修学年	3 年	
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間による造形の始まり・意義を知る。</li> <li>・産業革命以降に生まれた「デザイン」の概念を理解する。</li> <li>・これからのデザインやものづくりの基本理念を考え、創造する力を養う。</li> </ul>					
使用教材	<b>【教科書】</b> デザイン史(東京電機大学) <b>【副教材】</b> 自主教材					
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度 デザイン・造形の歴史に共感し課題意識を持つ。社会における創造的な活動・発展の過程を学習する。	思考・判断 近現代デザイン史に至る造形の歴史から課題を見いだす。世界史的視野に立って多面的・多角的に考察する。国際社会の変化を踏まえて創造する。	技能・表現 古代・中世・近現代デザインの歴史についての諸資料を活用する。歴史的事象を追及し、その過程や結果を応用する。	知識・理解 古代・中世・近現代デザイン造形の基本的な事柄を研究する。歴史的事象と関連付けながら理解し、その知識を身につける。		
評価方法	目標を踏まえ、デザイン史に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」、「知識・理解」、「技能・表現」については提出物と定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
前期	造形の始まり  日本 原始～古代  西洋 原始～古代		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の造形の始まりとその意義を理解する。</li> <li>・仏教の影響を受けた古代文化の特徴とその造形の違いを理解し、工芸品や建築などを通して、華やかな貴族文化が生んだデザインの特徴を知る。</li> <li>・西洋の伝統的な歴史と風土とともに、造形の交流、発展、移り変わりについて、工芸品や建築などを参考に学習する。</li> </ul>			
後期	日本 中世 ・平安～室町時代(文化と造形の特徴) 近世 ・安土、桃山～江戸時代(文化と造形の特徴) ・明治、大正時代(文化と造形の特徴)  西洋 近代 ・近代デザインのはじまり アーツ・アンド・クラフツ運動、 アール・ヌーヴォー等のデザイン運動 ・近代デザインの成立と展開 バウハウス、アール・デコ等  現代 ・世界のデザインの潮流と我が国のデザイン		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本独自の文化を形成していった中世文化について理解する。</li> <li>・貴族文化から武士や庶民文化へと変化していった造形の特徴を読み取る。</li> <li>・西洋文化の影響を受けながら、鎖国による日本独自の上方、江戸の庶民文化を生み出した造形の特徴を知る。</li> <li>・世界に大きな影響を与えた西洋における近代デザイン運動の流れを知る。</li> <li>・イギリス産業革命により近代のデザイン運動がはじまる過程をアーツ・アンド・クラフツ運動を中心に理解する。</li> <li>・第一次大戦後にドイツで設立されバウハウスや、近代美術の運動を絡めながら、デザインが社会的に認められ展開する過程を理解する。</li> <li>・環境や国際交流、人権に目を向けたデザインが必要となっていくことを知る。</li> </ul>			
学 習 上 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた課題は、提出期日を守り必ず提出してください。</li> <li>・予習・復習をしっかりとし、日々の授業を大切にしてください。</li> </ul>					

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	ビジネス基礎	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	・ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得し、経済社会の一員としての望ましい心構えを身につけるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を養う。				
使用教材	【教科書】ビジネス基礎 (実教出版) 【副教材】検定問題集				
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	ビジネスの諸活動に広く関心をもち、その意義や役割の理解及び諸問題の探求を目指し、経済社会の一員としての望ましい心構えや態度を身につけている。	ビジネスに関する諸問題を経済生活との関連からの確に把握し、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。	ビジネスに関する基礎的・基本的な技術と望ましい心構えを身につけ、経済社会の一員としてビジネスの技術を適切に活用している。	商業を学ぶ目的や学び方を理解するとともに、ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、経済社会におけるビジネスの意義や役割を理解している。	
評価方法	目標を踏まえ、ビジネス基礎に対する「関心・意欲・態度」と「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」については、日々の授業を中心に評価を行う。「知識・理解」については試験をもとに評価を行う。具体的には、日々の授業態度、提出物、小テスト、考査等をもとに、総合的に判断し評価をする。				
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			
1 学期	商業の学習ガイダンス  経済と流通の基礎 経済のしくみとビジネス・社会の変化とビジネスの発展・経済活動と流通	・豊かな人間性の意味及びその大切さについて学習し、自分自身を知り、力強く生きていく姿勢を身につける。 ・ビジネスの発展による利点について学習する。 ・ビジネスにおける国際化をイメージする。			
2 学期	ビジネスの担い手 ものの生産者・サービスの生産者・小売業者 卸売業者・物流業者・金融業者・情報通信業者  企業活動の基礎 ビジネスと企業・資金調達・企業活動と税 雇用・企業理念  ビジネスと売買取引 売買取引の手順・代金決済	・情報化がビジネスにおいて重要であることを理解し、情報化によりビジネスがどのように変化したかを学習する。 ・サービス経済化の意味を学習する。 ・科学技術の進展に伴うビジネスの発展を確認確認する。 ・生産者の役割や種類、小売業者のチェーン化について学習する。 ・情報ネットワーク化と物流のシステム化から物流業者の動向を学習する。 ・商取引における契約の重要性を理解し、売買取引の締結と手順や、履行の意義などについて学習する。			
3 学期	売買に関する計算 売買に関する計算の基礎、応用  ビジネスとコミュニケーション コミュニケーション・ビジネスマナー 情報入手と活用	・外国人とのコミュニケーションについて関心を持ち、相手の文化や習慣を理解する態度を養う。 ・簡単な英語表現を用いて学習する。			
学習上の留意点	・商業の学習はビジネスの学習であり、このビジネス基礎はビジネスの全体像を学ぶ科目です。そのため、卒業後の進路もふまえて簿記の基礎やワープロの基礎についても学習します。 ・基礎的な知識や技術、心構えを身につけ、進路を考えるうえで、この学習を役立ててください。				

## 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	商業(経営科)・ビジネス情報	単位数	2	単位	履修年次	3	年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスに関する情報を表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを利用して管理、分析、活用する知識や技術を習得する。</li> <li>・ソフトウェアを利用したビジネス情報システムの開発について理解し、コンピュータを活用して業務を合理化、自動化するなどエンドユーザコンピューティングを積極的に推進する創造的な能力と態度を養う。</li> </ul>						
使用教材	【教科書】ビジネス情報 新訂版 (実教出版)						
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
	<p>ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割について関心を持ち、ビジネス情報を適切に分析、処理して活用しようとする。</p>	<p>情報を収集、処理するために具体的なデータをを用いて、実践的な実習をおこない処理された情報を分析しようとしている。</p>	<p>表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアなど適切なソフトウェアを用いて、ビジネスで活用できるシステムを作り出そうとしている。</p>	<p>ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解するとともに、それを実践するための知識を身につけている。</p>			
評価方法	<p>目標を踏まえ、ビジネス情報に対する「関心・意欲・態度」については、日々の授業を中心に評価を行い、「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」は、定期考査を中心に評価を行います。具体的には、日々の授業態度、提出物の状況、5回の定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。</p>						
学 期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1 学期	1	ビジネスと情報		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにおける情報化の推進に関する基本的な知識を習得し、この科目を学ぶ目的やねらいを理解する。</li> <li>・表計算ソフトウェアを用いてさまざまなビジネス情報を分析し活用するための知識、技術を身につける。</li> </ul>			
	2	情報通信のネットワーク					
2 学期	3	表計算ソフトウェアの活用		<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトウェアのマクロ機能を用いて、日常の業務を自動化するための知識、技術を習得する。</li> <li>・リレーショナル型データベースを作成し活用するための、知識、技術を習得する。</li> </ul>			
	4	データベースソフトウェアの活用					
3 学期	5	ソフトウェアを活用したシステム開発		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス情報システム開発に関する基本的な知識と技術を習得する。</li> </ul>			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会を生きぬくうえで必要不可欠な情報モラルをしっかりと身に付けましょう。</li> <li>・マナーを守ってパソコンの実習を行い、期限内に提出課題を完成させましょう。</li> </ul>						

## 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉コース)・こころとからだの理解		単位数	4 単位	履修年次	3 年
目 標	・自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を身につけ、介護実践に適切に活用できる能力を身につける。					
使用教材	【副教材】こころとからだの理解 (実教出版)					
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
	・こころとからだの基礎的な知識を理解し、生活支援を行う上で利用者の生活行動についての理解ができる。	・こころとからだの基礎的な知識を理解し、利用者のこころをふまえた介護の考えを持つことができる。 ・こころとからだの理解をふまえた生活支援を行う判断ができる。 ・生活支援の項目がなぜ必要なのかを説明することができる。	・介護に必要とされる、こころとからだの基礎的な知識について関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。			
評価方法	目標を踏まえ、「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験をもとに評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、考査等をもとに、総合的に判断し評価します。					
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い			
1 学期	人間の成長と発達の基礎的理解 ・ 発達とは ・ 老年期の理解と日常生活 ・ 高齢者と健康		・ 人間の成長と発達について学びます。 ・ 法律から老年期の定義、課題を学び、高齢者の生活を理解します ・ 生活習慣病・高齢者に多い病気について学びます。			
2 学期	認知症の理解 ・ 認知症をとりまく環境 ・ 認知症の基礎的理解 ・ 認知症に伴う心身の変化と日常生活 ・ 認知症と地域サポート		・ 認知症の中核症状・周辺症状について学びます。 ・ 認知症が及ぼす心理的影響や特徴について学びます。			
3 学期	障害の理解 ・ 障害の基礎的理解 ・ 生活機能障害の理解 ・ 障害に伴う心身の変化と日常生活 ・ 障害と地域生活支援		・ 障害について、関係法規・ノーマライゼーション・リハビリテーションの考え方について学びます。 ・ 各種障害の種類と原因等、医学的な基礎知識を学びます。 ・ 各障害についての日常生活での介助や地域での支援について学びます。			
学習上の 留 意 点	・ 国家試験では、「発達と老化の理解」、「認知症の理解」、「障害者の理解」と3科目に分かれ、問題数も多くなります。1項目ずつしっかりと勉強して学んでください。					

# 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	福祉(介護福祉)コミュニケーション技術	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションに関する知識と技術を習得する。</li> <li>・社会福祉援助活動に活用する能力と態度を養う。</li> </ul>				
使用教材	【教科書】コミュニケーション技術 (実教出版)				
評価の観点 ・評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度		
	コミュニケーションの技法や人との関係作りについて、日常生活と重ね合わせて考えることができたか。	コミュニケーションの基本である傾聴・共感・受容の態度で対話ができるか。	対人関係に関する援助やコミュニケーションに興味を持ち、授業に意欲的に取り組んでいるか。		
評価方法	目標を踏まえ、社会福祉援助技術に対する「主体的に取り組む態度」「思考・判断・表現」、については、日々の授業を中心に評価を行います。「知識・技能」については試験を中心に評価します。具体的には、日々の授業態度、提出物、定期考査等をもとに総合的に判断し評価します。				
学 期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い			
1学期	介護におけるコミュニケーション ・コミュニケーションの意義と役割  ・コミュニケーションの基本技術  ・援助の技法とコミュニケーション	・コミュニケーションの意義と役割を理解し、人間関係の形成や他者理解、自己理解について学びます。 ・傾聴や受容、共感など、コミュニケーションの基本技術について学びます。 ・個別的な援助、集団的な援助の概要について学びます。			
2学期	サービス利用者や家族とのコミュニケーション ・サービス利用者や家族との関係づくり  ・サービス利用者に応じたコミュニケーション	・利用者や家族との関係づくりについて、学びます。  ・手話や点字をはじめ、利用者の状態に応じたコミュニケーション技法を学びます。			
3学期	介護におけるチームのコミュニケーション ・記録 ・チームによる連携  ・スーパービジョンの技法	・記録の意義や目的、活用などを学びます。 ・情報共有の必要性や他職種との関わりについて学びます。 ・スーパービジョンの必要性や面接方法について学びます。			
学習上の留意点	・対人援助の基本である援助技術・コミュニケーションなどに関する知識と技術を学び、実践力を身に付けます。授業には常に意欲的に取り組みましょう。 ・普段の自分自身のコミュニケーションを振り返り、学習に取り組みましょう。				

## 年間授業計画(シラバス)

三重県立伊賀白鳳高等学校

教科・科目	保健体育・スポーツⅡ	単位数	2 単位	履修年次	3 年
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技の特性について理解し、課題の解決を目指して、計画的に運動することができる。</li> <li>・高度な技能と審判法を習得する。</li> <li>・指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を身につけます。</li> </ul>				
使用教材	【副教材】 最新スポーツルール (大修館)				
評価の観点 ・評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康、安全に留意して自ら積極的に運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の方法を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身につけている。	各種目のルールや特性、基本技術を理解し、運動技能の構造と運動の学び方などの知識を身につけている。	
評価方法	授業への取り組み方を「関心・意欲・態度」、学習内容を高める為の工夫を「思考・判断」、運動の実技試験や授業中での技術発揮の様子を「運動の技能」、ルールの理解や練習方法の組立等を「知識・理解」として評価をし、それらを総合的に評価します。				
学 期	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		
1 学期	球技 ○バスケットボール ○ハンドボール ○サッカー ○ラグビー  体育理論		球技の特性について理解し、課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得します。  指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を身につけます。		
2 学期	球技 ○バレーボール ○テニス ○野球 ○ゴルフ  体育理論		球技の特性について理解し、課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得します。  指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を身につけます。		
3 学期	球技 ○ソフトボール ○卓球 ○バドミントン  体育理論		球技の特性について理解し、課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得します。  指導者または、トップアスリートを目指すために必要な知識を身につけます。		
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の怪我防止(安全確保)の為、授業でのルール・指示を必ず守るようにしてください。</li> <li>・受講生の状況に応じて、上記種目から選択して行います。</li> </ul>				